

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 年 月 日

事業所名 Berry Join

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		見通しの良いワンフロアの室内で子どもの様子がよくわかる。	
	2	職員の配置数は適切である	○		お互いに学びあえる環境	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達が動きやすく、安全を考えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		明るく清潔を心がけ、季節を感じられる空間にしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ゆつくりスモールステップを目標に日々振り返りに努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表と共に日々の保護者の声を大切にしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページより、日々のダイアリーで見て頂く事を大事にしている。	ホームページでの公開も必要に応じて対応する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者機関による外部評価を行い、公正に努めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修を定期的に行っている。	社内研修とは別に、外部研修にも積極的に参加する。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		定期的カンファレンスを徹底し、ニーズの課題を見直している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			更に充実させるよう専門的な資料を増やしていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		利用者のニーズに合わせた支援を保護者・地域と協力し行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		定期的なカンファレンスを職員会議で行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個別・小集団でのプログラムを工夫し取り組んでいる。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎日違う活動を導入している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		カンファレンスとは別に、指導員間でのミーティングと確認を行っている		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動様子や、その日の子どものトピックスをスタッフで共有し、次の活動に繋げられるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		指導員間で日々、確認を行い記録している。	全職員が作成出来るよう確認を行っていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との連携を大切にしている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		全ての指導員が参画出来る環境を作っている。	今後も更に研修を徹底していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			更に密に情報共有出来るよう努める。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		現在医療的ケアが必要な利用者が居ないが、看護師の配置をしている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		現在医療的ケアが必要な利用者が居ないが、看護師の配置をしている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		常に情報共有を心がけている。	進級・進学の際の情報共有も大切にしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			進級・進学の際の情報共有も大切にしていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	専門機関や連携に努めている。	コロナ感染防止の為、積極的に活動出来なかったが、今後は視野に入れていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	利用者のニーズが無く、不必要と思われる方が多い為控えている。	デリケートな部分を熟慮し検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			コロナ禍の為参加出来る機会が少なかったが、今後積極的に参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際や電話、面談でフィードバックを行い、共有する時間を設けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		コロナ禍で難しかったので、今後保護者と密に関わるよう心掛けていく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際、規約等の説明を丁寧に行っている。	更に分かりやすい説明が出来るよう心掛ける。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約の際、規約等の説明を丁寧に行っている。	更に分かりやすい説明が出来るよう心掛ける。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		繊細な心のケアを大切に寄り添える時間を作り、取り組んでいる。	更に保護者様の思いに寄り添えるよう、心から向き合う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍で難しかったので、今後は保護者と必要に応じて関わられるよう心掛けていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のお便りなど、文章での配信を中心に必要に応じた情報配信をしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の扱いの大切さを常に言葉にて、指導にあたっている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			様々な災害・不審者を想定し、避難訓練を実施、指導員も素早く対応出来るようにしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			様々な災害・不審者を想定し、避難訓練を実施、指導員も素早く対応出来るようにしていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		緊急連絡票にて保護者に記入して頂いている。	全指導員がマニュアルをしっかりと把握し、緊急対応が出来るように研修を行っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		緊急連絡票にて保護者に記入して頂いている。	全指導員がマニュアルをしっかりと把握し、緊急対応が出来るように研修を行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		指導員で必ず共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			様々な資料を増加し、研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		しっかりと保護者に説明した上で記載をしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。